

令和 3 年 6 月 17 日現在

機関番号：15101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18K02366

研究課題名(和文) 知的障害、発達障害の教育目標・教育評価に関する研究 - 資質・能力論の観点から

研究課題名(英文) A Study on Educational Objectives and Evaluation from the viewpoints of Quality and Ability

研究代表者

三木 裕和 (MIKI, Hirokazu)

鳥取大学・地域学部・教授

研究者番号：80622513

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：研究の目的は、知的障害、発達障害の教育目標・教育評価の構造を、資質能力の観点から明らかにすることであった。学校教員と大学研究者の合同研究会を、のべ16日間に渡って行い、数多くの授業実践を検討した。その結果、知的障害、発達障害の授業において、自立と社会参加が重視される傾向にあるが、文化、科学の伝達、習得と人間発達をめざした教材、授業が重要であることが明らかになった。また、創造的に考えること、人と共感することを教育目標とした授業も多く見られた。学校教育全般における、共感的情動体験の蓄積が有効であると推察された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

OECDのキー・コンピテンシーと資質能力論は、知的障害のない者を念頭に置くものであり、知的障害・発達障害などの教育実践に適応させる上で困難が見られた。特に、職業検定など、社会適応に傾斜した教育が先行する特別支援学校においては、キー・コンピテンシーと訓練的学習との衝突が認められた。一方、特別支援学校高等部の自己理解の取り組み、理科、社会の知的活動、小学校から高等部卒業までを追った事例検討、重症児の発達の理解と教育実践、小学校特別支援学級の粘土を用いた表現活動など、多彩な教育実践が報告され、知的発達を基礎に、人類の文化、科学、芸術を学ぶことで内面の変化が見られることも、実感を持って理解された。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study is to build up the structure of educational objectives and evaluation from the viewpoints of quality and ability. For as many as sixteen days, we had joint meetings of school teachers and university researchers where we discussed diverse examples of lesson practices. Throughout these meetings, while in the lessons for those children with intellectual disability, developmental disability, we tended to focus on the independence and social participation, we found it important to use teaching materials encouraging them to learn culture, science and human development. It was also noticeable that there were many classroom practices whose educational objectives promoted those children to have the ability to think creatively and sympathize with people. We found that it was more effective to offer in general school education many opportunities to accumulate experiences of sympathetic emotions.

研究分野：障害児教育学

キーワード：教育目標 教育評価 資質・能力 知的障害 発達障害 教材 授業づくり

1. 研究開始当初の背景

学習指導要領改訂に伴い、「新しい時代に必要となる資質・能力（コンピテンシー）」が提起されたが、知的障害、発達障害において、それは教育学的概念としてどのように成立するのか。その検討が必要だった。学習指導要領改訂で提起された資質・能力（コンピテンシー）は、障害のない児童生徒、分けても学力が高く、優位に社会参加が見込まれる者を前提としていると見られ、それが障害児教育において適用可能な資質能力観なのかどうかを実証的に検証することを志向した。

研究方法は、教育学、心理学の研究者と学校教員との定例研究会を基礎とした共同研究であった。特別支援学校、特別支援学級の教育課程、授業の実際に根ざした研究を計画した。この研究は「自閉症児の授業づくりにおける教育目標・教育評価に関する研究」（基盤研究C）を引き継ぐものとして位置づけ、多くの研究者、学校教員が継続研究に同意した。

知的障害教育では一般企業就労を中心とした社会参加の取り組み、特に「職業検定」が隆盛であり、自閉症教育では社会不適応行動の改善が強く求められているが、それらの傾向を、OECDのDeSeCoプロジェクトが提起するキー・コンピテンシー概念との関連において、教育学的、心理学的に再検討することを試みた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、以下の通りであった。

(1) 学習指導要領改訂が求める「新しい時代に必要となる資質・能力（コンピテンシー）」の概念規定とその特徴を、知的障害、発達障害との関係において明らかにすること。

(2) 特別支援学校、特別支援学級の先進的授業において、教員はどのような資質・能力（コンピテンシー）観を前提として実践しているかを明らかにすること。また、それはどのような教育方法によって支えられているかを、アクティブ・ラーニングの概念との関係で明らかにすること。

(3) 教育において、本来的に求められる能力の伸長と人格的成長の営みが、学習指導要領改訂を契機にどのような影響を受けるのか、その現実と可能性を明らかにすること。

上記に掲げた研究目的(1)(2)(3)の、それぞれの到達目標は次のとおりであった。

(1) 「新しい時代に必要となる資質・能力（コンピテンシー）」に関わっては、OECDのDeSeCoプロジェクトが提起するキー・コンピテンシー概念とわが国の教育施策との関連を検討し、それが知的障害・発達障害の教育に適応可能な概念なのかどうかを明らかにする。

(2) 先進的教育実践の検討に関わっては、特別支援学校で取り組まれている「職業検定」がどのような教育目標・教育評価を措定しているかを検討し、子どもの中に新たな文化的価値を実現する授業の教材観、目標・評価観の可能性を明らかにする。

(3) 新学習指導要領が、知的障害・発達障害の教育現場で、どのような資質・能力観をもって伝達されており、教員はどのように受け止めているかを明らかにする。

3. 研究の方法

研究の方法としては、障害児教育に関わる学校教員を招聘し、教育実践の詳細な報告を行ってもらい、それをもとに研究代表者、研究分担者、および報告教員との共同検討作業を行った。これは2012年から継続する研究体制であり、研究代表者、研究分担者の他、十数名の学校教員が自主的に定例研究会に参加し、議論に加わっており、安定的な研究方法となっていた。

研究代表者および7名の研究分担者で共同研究を遂行し、全体的な研究の総括は代表の三木が行った。研究の総括およびとりまとめ：三木裕和（研究代表者、障害児教育学）、教育学的研究を担当する者：三木（障害児教育学）、山根俊喜（教育方法学）、川地亜弥子（教育方法学）、越野和之（障害児教育学）、國本真吾（青年期教育学）、心理学的研究を担当する者：別府哲（教育心理学）、寺川志奈子（発達心理学）、赤木和重（発達心理学）。

研究は、テーマに即して教育実践を紹介する学校教員を招聘し、それを集団的に検討する形で行った。また継続的に参加する学校教員を組織することで、恒常性のある議論を志向した。研究者の専攻は、大きく教育学、心理学を柱としており、それぞれの事情で本研究へのエフォートに変化が生じてもそれを補い合える体制を整えた。

研究最終年である2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインでの共同研究会を主とした。

4. 研究成果

研究活動の実績は以下の通りである。

(1) 研究初年度（2018年度）会場はすべて鳥取大学

<第1回研究会>11月3日（土）～4日（日）

報告①中教審、教育再生実行会議文書から見る「資質・能力論」と障害児教育、三木裕和（鳥取大学）、澤田淳太郎（鳥取大学大学院）、指定討論、山根、別府。

報告②「人生再発見～障害の重い人の生活介護の実践」、原田文孝（NPO法人ささゆり会理事長）。

報告③自分と向きあい、生き抜く子どもたち ～高等部の生徒から学んだこと～、塩田奈津（京都府立与謝の海支援学校）、指定討論、越野。

報告④青年期の学びと発達保障、國本真吾（鳥取短期大学）、指定討論、寺川。

<第2回研究会>12月23日（土）～24日（日）

報告①「資質・能力のモデルと評価の問題」松下佳代（京都大学・高等教育研究開発推進センター）、討論。

報告②「小学校教育の現状と課題 資質能力論と学力テスト」高橋翔吾（大阪・泉大津市旭小学校）、討論。

報告③「発達保障論における教育実践の構想」越野、討論。

報告④「インクルーシブな学校づくりーイングランドの特別支援学校と初等学校、中等後教育の事例からー」川地、討論。

2018年度は6月に第1回を予定していたが、台風のため中止し、年2回の開催に変更した。

(2)研究2年度（2019年度）会場はすべて鳥取大学

<第1回研究会>6月29日（土）～30日（日）

報告①青年の姿から学校教育を考えるーえい子・こゆきの事例から、大島悦子（大阪市立高倉小学校）、指定討論、赤木、岡野さえ子（山口県立萩総合支援学校）。

報告②「障害者の生涯学習を巡る動向」、國本、討論。

報告③「土ねんどあそび」を題材にしたづくりの授業、池田翼（奈良教育大学附属小学校教諭）、指定討論、寺川、原田。

報告④「OECDの日本教育への評価を考える」三木、指定討論（山根）。

<第2回研究会>11月3日（日）～11月4日（祝）

報告①「教育実践と資質・能力、その1、教育実践と資質・能力」塚田直也（筑波大学附属特別支援学校）、討論。

報告②「教育実践と資質・能力、その2、理想と現状～子どもを「ミトル」って、ナニ？～」吉松薫（大阪府立光陽支援学校）、討論。

報告③「自閉症児・発達障害児の教育目標・教育評価 1・2 を読んで」河合隆平（首都大学東京）、討論。

報告④「キー・コンピテンシーと障害」三木、討論。

<第3回研究会>12月7日（土）～8日（日）

報告①「DSM5は発達障害診断のハイパーインフレか」（三木）、討論。

報告②「知的障害と資質・能力論ー各教科、合わせた指導ってなんだ」越野、指定討論、原田、石田誠（京都府立与謝の海支援学校）。

報告③「授業をとおして、子どもたちにつたえたいこと～理科・社会の実践～」塩田。

報告④「学習指導要領策定過程における障害の把握」澤田、三木。

(3)研究最終年度（2020年度）すべてオンライン研究会。センターを鳥取大学に置いた。

<第1回研究会、緊急特別企画「障害児教育における新型コロナウイルス問題検討会」>6月14日（日）。全国一斉休校の実態と学校教育への影響を資質・能力論の観点を中心に報告、討論した。

報告と討論、塚田直也（神奈川県、大学附属特別支援学校学部主事、知的障害）、西堂直子（兵庫県、大学附属特別支援学校副校長、知的障害）、高橋翔吾（大阪府、公立小学校特別支援学級担任、知的障害）、越野和之（奈良教育大学教員）。

<第2回研究会、緊急特別企画「障害児教育における新型コロナウイルス問題検討会第2回」>7月5日（日）

報告と討論、古澤直子（東京都、公立特別支援学校教員、肢体不自由）、木澤愛子（滋賀県、公立特別支援学校教員、肢体不自由）、他の参加者：第1回と同じ。その他に、寺川志奈子（鳥取大学教員）、内地留学教員、県内特別支援学校教員。

<第3回研究会、緊急特別企画「障害児教育における新型コロナウイルス問題検討会第3回」>8月30日（日）

報告と討論、第1回、第2回参加者と同じ。

<第4回研究会、定例企画>11月1日（日）

報告①「障害児教育における新型コロナウイルス問題検討会報告」全国障害者問題研究会鳥取支部、討論。

報告②「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議ーこれまでの議論の整理、をめぐって」越野、討論。

<第5回研究会、定例企画>11月21日（土）

報告①「フィンランドの教育よもやま話ーみんな違ってそれでいいー」寺川、討論。

報告②「重症心身障害児の授業ーコロナ禍の学校教育」木澤、討論。

<第6回研究会、定例企画>12月6日（日）

報告①「未来の教室、GIGA スクール構想、令和の日本型学校教育の論点と課題ー昭和の生活綴方からの示唆ー」川地、討論。

このように、当初の計画を基本に研究活動を遂行することができた。最終年度はコロナ禍での変更を余儀なくされたが、全国一斉休校の影響を検討し、資質能力論の展開を検討することがで

きた。

3年の研究を通して、特別支援学校、特別支援学級、福祉事業所、および海外の教育実態について、学校教員と研究者の共同研究を継続できた。研究者からの問題提起を受けて集団的な討論を重ねた結果、次のことが明らかになった。

OECD のキー・コンピテンシーを理論的根拠とするわが国の資質能力論は、知的障害のない児童生徒を念頭に置くものであり、知的障害・発達障害などの教育実践に適応させる上で困難が見られた。特に、職業検定など、社会適応に傾斜した教育が先行する特別支援学校においては、「目の状況に対して特定の定式や方法を反復継続的に当てはまることのできる力だけでなく、変化に対応する力、経験から学ぶ力、批判的な立場で考え、行動する力」と説明されるキー・コンピテンシーと反復継続学習を基礎とする訓練的学習との理論的衝突が認められた。

一方で、知的障害特別支援学校高等部の自己理解の取り組み、理科、社会の知的活動、小学校特別支援学級から見た学力テスト批判、小学校から高等部卒業までを追った事例検討、重症児の発達の理解と教育実践、小学校特別支援学級の粘土を用いた表現活動など、多彩で創造的な授業実践が多く報告され、知的障害、発達障害においても知的発達を基礎に、人類の文化、科学、芸術を学ぶことで内面の変化が見られることも、実感を持って共通理解された。

3年間の研究期間を終え、その研究成果を出版物として発行予定であり（三木裕和単著、2021年秋、クリエツかもがわ）、広く障害児教育関係者に還元する計画である。2020年度で本研究は終了したが、この研究メンバーを中心に民間ベースで研究を引き継ぐ予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計19件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 赤木和重	4. 巻 542号
2. 論文標題 発達障害のある子どもの安楽さを大事に：学童保育だからこそ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本の学童はいく	6. 最初と最後の頁 28-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前岡良汰・赤木和重	4. 巻 -
2. 論文標題 小学生は授業スタンダードをどのように捉えるのか：個人の権利意識の発達の観点から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 心理学	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 生田邦紘・赤木和重	4. 巻 -
2. 論文標題 軽度知的障害のある青年の障害受容：「ふつう」にこだわっていた青年は、なぜ「ふつう」にこだわらなくなったのか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 心理学	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 別府哲	4. 巻 163号
2. 論文標題 自閉スペクトラム症児のユニークな情動理解	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 発達	6. 最初と最後の頁 74-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 別府哲	4. 巻 第48巻第2号
2. 論文標題 自閉スペクトラム症と9歳の節 - ユニークな心理化と自己理解	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 障害者問題研究	6. 最初と最後の頁 98-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川地亜弥子	4. 巻 2021年1月号
2. 論文標題 学校で学ぶことと生活綴り方	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 作文と教育	6. 最初と最後の頁 6-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川地亜弥子	4. 巻 203号
2. 論文標題 新型コロナ禍で問われる学校の役割	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ひろば	6. 最初と最後の頁 4-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三木裕和	4. 巻 2020年11月号
2. 論文標題 コロナの時代と障害者の生きる自由 - 丸谷オー『笹まくら』を読んで	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育	6. 最初と最後の頁 102-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤田淳太郎、三木裕和	4. 巻 第17巻第3号
2. 論文標題 2017年告示学習指導要領における特別支援教育の「資質・能力」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地域学論集（鳥取大学地域学部紀要）	6. 最初と最後の頁 5-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村川恵、三木裕和	4. 巻 第13巻第1号
2. 論文標題 余暇活動を通じて自分らしさを発揮していく特別支援学校高等部の実践報告	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地域教育学研究	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 國本真吾	4. 巻 第48巻第1号
2. 論文標題 知的障害者の「権利としての生涯学習」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 障害者問題研究	6. 最初と最後の頁 26-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 國本真吾	4. 巻 第49巻第1号
2. 論文標題 コロナ禍における障害児教育の現状把握 オンライン研究会の取り組みから	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 障害者問題研究	6. 最初と最後の頁 74-77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三木裕和	4. 巻 2020年12月号
2. 論文標題 オンラインと人間的共感関係 - 岐路に立つ教育	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 みんなのねがい	6. 最初と最後の頁 23-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野波雄一、三木裕和	4. 巻 第16巻第3号
2. 論文標題 軽度知的障害者の卒業後の実態と求められる社会的支援 当事者へのインタビュー調査を通して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 鳥取大学地域学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川地亜弥子	4. 巻 878号
2. 論文標題 大人も子どもも自己を表現する	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 作文と教育	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三木裕和	4. 巻 626
2. 論文標題 特別支援教育の現状をどう見るか 「教育の自由」と「子どもの権利」の観点から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 みんなのねがい	6. 最初と最後の頁 30-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三木裕和	4. 巻 56巻6号
2. 論文標題 特別支援教育と不登校問題 9-10歳の発達の節目	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Japanese Journal of Rehabilitation	6. 最初と最後の頁 476-480
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉川奈佑、三木裕和	4. 巻 第15巻第3号
2. 論文標題 高等部に在籍する軽度知的障害児の算数・数学的思考の実態と教育的指導のあり方-ゲーム的授業と概数獲得	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地域学論集	6. 最初と最後の頁 25-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 尾崎久仁香、三木裕和	4. 巻 第14巻第3号
2. 論文標題 小学校に在籍する自閉スペクトラム症児の教育指導のあり方	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地域学論集	6. 最初と最後の頁 65-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計12件

1. 著者名 赤木和重 (分担執筆)、宇野宏幸・一般社団法人LD学会 第29回大会実行委員会 (編)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 金子書房	5. 総ページ数 142
3. 書名 学びをめぐる多様性と授業・学校づくり	

1. 著者名 赤木和重（分担執筆） 石井英真（編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東洋館出版	5. 総ページ数 320
3. 書名 流行に踊る日本の教育	

1. 著者名 赤木和重（分担執筆）、時岡晴美・大久保智生・岡田涼・平田俊治（編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 福村出版	5. 総ページ数 216
3. 書名 地域と協働する学校：中学校の実践から読み解く思春期の子どもと地域とのかかわり	

1. 著者名 赤木和重（編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ひとなる書房	5. 総ページ数 253
3. 書名 アメリカの教室に入ってみた：貧困地区の公立学校から超インクルーシブ教育まで（DVD付特別版）	

1. 著者名 寺川志奈子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 全障研出版部	5. 総ページ数 98-122
3. 書名 新版・教育と保育のための発達診断・下 発達診断の視点と方法	

1. 著者名 三木裕和（分担執筆）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明治図書	5. 総ページ数 260
3. 書名 教育評価重要用語事典	

1. 著者名 三木裕和、越野和之編著、川地亜弥子、寺川志奈子、國本真吾、障害児教育の教育目標・教育評価研究会	4. 発行年 2019年
2. 出版社 クリエイツかもがわ	5. 総ページ数 140
3. 書名 自閉症児・発達障害児の教育目標・教育評価1 子どもの「ねがい」と授業づくり	

1. 著者名 三木裕和、越野和之編著、別府哲、赤木和重障害児教育の教育目標・教育評価研究会	4. 発行年 2019年
2. 出版社 クリエイツかもがわ	5. 総ページ数 136
3. 書名 自閉症児・発達障害児の教育目標・教育評価2 「行動障害」の共感的理解と教育	

1. 著者名 川地亜弥子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ぎょうせい	5. 総ページ数 11
3. 書名 「『主体的に学習に取り組む態度』の捉えと評価」田中耕治『学びを変える新しい学習評価 第2巻 各教科等の学びと新しい学習評価』	

1. 著者名 三木裕和、きぬがさ福祉会、ひびき福祉会	4. 発行年 2019年
2. 出版社 きょうされん	5. 総ページ数 60
3. 書名 はたらく WORK 障害のある人の働く姿から	

1. 著者名 越野和之	4. 発行年 2019年
2. 出版社 全障研出版部	5. 総ページ数 141
3. 書名 子どもに文化を 教師にあこがれと自由を	

1. 著者名 越野 和之 (編集), 全障研研究推進委員会 (編集)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 全障研出版部	5. 総ページ数 268
3. 書名 発達保障論の到達と論点	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	別府 哲 (BEPPU Satoshi) (20209208)	岐阜大学・教育学部・教授 (13701)	
研究分担者	川地 亜弥子 (KAWAJI Ayako) (20411473)	神戸大学・人間発達環境学研究科・准教授 (14501)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	寺川 志奈子 (TERAKAWA Shinako) (30249297)	鳥取大学・地域学部・教授 (15101)	
研究分担者	山根 俊喜 (YAMANE Toshiki) (70240067)	鳥取大学・地域学部・教授 (15101)	
研究分担者	赤木 和重 (AKAGI Kazushige) (70402675)	神戸大学・人間発達環境学研究科・准教授 (14501)	
研究分担者	國本 真吾 (KUNIMOTO Shingo) (80353100)	鳥取短期大学・その他部局等・教授 (45102)	
研究分担者	越野 和之 (KOSHINO Kazuyuki) (90252824)	奈良教育大学・学校教育講座・教授 (14601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関